

# 令和5年度 第1回 橋本市生活交通ネットワーク協議会 議事録

## 1. 開催日時

令和5年6月14日(水) 午後3:00~4:20

## 2. 開催場所

橋本市東家一丁目6番27号 橋本市民会館 1階ギャラリー

## 3. 出席者(20名)

### 会長

辻本 勝久 (和歌山大学経済学部 教授)

### 副会長

渋田 年男 (橋本市身体障害者連盟 顧問)

### 委員

堀川 憲一 (橋本市老人クラブ連合会 会長)

乾 幸八 (橋本市区長連合会 会長)

廣岡 慶三 (橋本市区長連合会 副会長)

南出 昌彦 (橋本市議会 総務経済委員長)

一ノ瀬 健 (国土交通省近畿運輸局和歌山運輸支局 首席運輸企画専門官)

和田 純一 (南海りんかんバス(株) 取締役社長)

木村 泰雄 (南海りんかんバス(株) 従業員代表)

藤本 昇三 (橋本市民病院事務局総務課 課長)

山崎 淑枝 (国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所 道路管理第一課長)

西前 克彦 (橋本市建設部 部長)

西山 浩己 (橋本警察署 署長) 【代理出席】

櫻田 徹 (かつらぎ警察署 署長) 【代理出席】

狭間 裕司 (和歌山県企画部地域振興局総合交通政策課 課長) 【代理出席】

小原 秀紀 (橋本市 副市長)

土井 加奈子 (橋本市総合政策部 部長)

久保 雅裕 (橋本市健康福祉部 部長)

北岡 慶久 (橋本市経済推進部 部長)

森下 清司 (公益社団法人和歌山県バス協会 専務理事)

### 欠席委員

松田 良夫 (橋本市社会福祉協議会 会長)

矢野 佳世子 (橋本市女性会議 会長)

平野 耕造 (橋本商工会議所 会頭)

米田 恵一 (高野口町商工会 会長)

森下 伸吾 (橋本市議会 議長)

鈴木 健 (国土交通省近畿運輸局和歌山運輸支局 首席運輸企画専門官)

下村 敏文 (西日本旅客鉄道(株) 橋本駅長)

辻本 淳二 (南海電気鉄道(株) 橋本駅長)

川村 昌彦 (有鉄観光タクシー(株) 取締役社長)

平岡 明義 (橋本第一交通(株) 本社営業所 所長)  
土山 真敏 (橋本タクシー(株) 代表取締役)  
杉本 和美 (和歌山県伊都振興局建設部 部長)  
川村 昌彦 (一般社団法人和歌山県タクシー協会 会長)  
西村 芳通 (一般社団法人和歌山県ハイヤー・タクシー協会)

#### 事務局

鈴木 淳司 (橋本市総合政策部地域振興室 室長)  
前川 朋久 (橋本市総合政策部地域振興室 室長補佐)  
嶋本 英明 (橋本市総合政策部地域振興室 主任)  
乾 沙也香 (橋本市総合政策部地域振興室 主査)

#### 4. 司会進行

事務局が司会進行を行った。

また、新任の委員の紹介を行った。

#### 5. 会長あいさつ

辻本会長が開会あいさつを行った。

#### 6. 会議資料

別紙1 令和5年度第1回橋本市生活交通ネットワーク協議会 次第  
別添資料1 橋本市コミュニティバス利用実績  
別添資料2 橋本市デマンドタクシー利用実績  
別添資料3 令和5年3月コミュニティバス・デマンドタクシー ルート・ダイヤ改正完了報告  
別添資料4 橋本市生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)(案)  
別添資料5 運転免許証自主返納者への支援制度について

## 7. 報 告

協議会規定に基づき、会長が議長となる。

### (1) 橋本市コミュニティバス・デマンドタクシーの利用状況について

【事務局】令和4年度1年間のコミバス利用者数は年間で20,182人、前年比で112.0%と増加傾向にある。収支率（運賃収入／運行経費）は4路線中2路線で目標の15%を達成した。デマンドタクシーの利用者数は前年比178.7%、運賃収入は182.7%と大幅に増加。また、デマンドタクシーとその他交通機関の乗り継ぎ利用は令和3年度の3件から約10倍に増加した。コロナ禍が落ち着いてきたことや、大きな再編から数年が経って市民の生活に溶け込んだこと等が増加の理由と考えられる。なお、地域公共交通計画に基づいてコミバスの利用促進を行うべく、6月上旬に市内の高校や沿線のホテルを対象としてチラシを配布したので報告する。

【会 長】コミュニティバス北部線のみ前年比100%を割っているが、原因はあるのか。

【事務局】特に原因は思い当たらない。

### (2) 令和5年3月コミュニティバス・デマンドタクシールート・ダイヤ改正作業の完了について

【事務局】令和5年3月31日（金）運行終了後～4月2日（日）の間に停留所の移設・撤去作業、時刻表の差し替えを244箇所行い、4月3日（月）より新ルート・ダイヤにて運行を開始しているので報告する。また、改正後の利用状況については、大きなルート変更と便数増（4往復→5往復）があった東部線が大幅に利用者数を伸ばしており、5月の前年同月比で155.0%。デマンドタクシーは路線数・便数ともに増えたため、4月の利用者数は前年同月比で2.4倍となった。

【会 長】デマンドタクシーの稼働率はどうなっているか。

【事務局】30～40%の間であったように記憶している。

## 8. 議 題

### (1) 橋本市生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）（案）について

【事務局】今年度は活性化再生法改正にともなう経過措置の最終年度。来年からは、昨年度に策定した地域公共交通計画に補足資料をプラスする形での補助申請となる。昨年度からの変更点としては、事業目標や実施主体について、地域公共交通計画に沿ったものになっている。なお、資料の5ページに今年2月に実施したコミュニティバス活性化のための実証実験について記載をしている。コミバス全利用者中69.8%が参加し、利用者数も前年同月比で149%と好評。「この機会に初めて利用した」といった声も聞かれた。

→意見なし、承認

### (2) 運転免許自主返納者への支援制度について

【事務局】加齢に伴う身体機能や判断力の低下により運転に不安を感じる人が自主的に運転免許の取り消しを申請できる「運転免許証自主返納制度」をより多くの高齢者に活用してもらうため、自治体や事業者が自主返納者への支援・優遇を行うことがある。本市でも早期の事業化をめざしているため、委員の皆様の意見をお聞きしたい。

【会 長】橋本市の身体障がい者を対象とした福祉タクシー券の配布は、初乗りチケットを25回分ということであったので、だいたい15,000円分。とすると、自主返納者への支援は10,000円くらいまでかと思う。

【副会長】私は視覚障がい者なので自動車の免許はもっていないが、一時的なものではなく継続的に割引を受けられるほうがよいのではないかと。コミバスの運賃を値引きするような形。

【森下委員（県バス協会）】自主返納者へのサポートについて、民間事業者の協力をお願いするのは良いと思う。一方で、運転免許証を持っていない人にとってはこういったしくみはどうなのか。和歌山市では高齢者に一律で優待制度があるので、切り離さず、市民サービスとして考えていけばよいのでは。また、警察からもこういった会議で運転免許自主返納制度の促進についてバス事業者をお願いをされているが、支援については自治体でお願いしたいとお話してきている。

【会 長】公平性の観点と、民間の支援が大事という意見。支援内容を見ても、コミュニティバスの沿線住民にメリットがあるので、鉄道等にも範囲を広げたほうがよいかもしれない。

【堀川委員（老人クラブ連合会）】老人クラブ連合会では、昨年 12 月に橋本警察署交通課からの声掛けで高齢者の事故防止について会議の場をもった。高齢者が免許返納をするにあたり、それに代わる支援は何かあるのかという話にもなった。やはり、支援が先ないと、地域によっては車がなくては生活できない。

【乾委員（区長連合会）】若い人と同居している世帯ならよいが、買い物などに行けなくなると地区の会議でもよく話題になる。いろいろと考えていただいているが、今この支援策では到底うまくいかないだろう。今、自分の区では地域の高齢者を 10 名程度集めて買い物へ送迎するツアーを月 1 回ほど行っているが、とても喜ばれている。少子高齢化が進む中、行政もこういった高齢者の移動支援を行うべきではないか。

【廣岡委員（区長連合会）】地域性で返納が難しいというのは確かにあると思う。市の方でももう少し支援を考えてほしい。

【森本代理（橋本警察）】県警では奈良や大阪のような取り組みはしていないが、昨年度の段階で市や他の関係機関を巻き込んで何かできないかという働きかけをしている最中である。警察としては運転免許証を取り上げるのではなく、このような制度があるので返納について考えてもらえないか、というスタンスでアナウンスをさせてもらっている。橋本警察署管内では、交通事故全体の約 4 割は 65 歳以上の方が関わっているものである。警察だけで出来る範囲は限られているが、たとえば運転経歴証明書の提示によって割引等が受けられるという民間企業があるなら、警察からも広報させていただきたい。

【一ノ瀬委員（運輸支局）】そもそも論、自主返納者への支援をする、ということは決定しているのか。

【事務局】はい。

【一ノ瀬委員】バス協会からも発言があったとおり、公平性といったところからはどうなのかと思う。一定年齢以上の方へ一律に何らかの支援を行い、公共交通を使ってもらおうという方向のほうがよいのではないかと。市民委員のみなさんから意見があったように、少々の支援で免許返納をしよう、という内容にはなっていないと思うので、今一度全員の利用促進につながるような制度を考えていただくのが、国の立場としてはありがたいと思う。

【土井委員（市総合政策部）】高齢者の方みなさんに公平に支援をとという意見をいただき、なるほどと思うところではあるが、以前本市で 75 歳以上コミュニティバス無料にしていた時期があり、民間事業者を圧迫するということが起きた。ゆえに、こういった提案をさせていただいた。また、大阪府の事例にもあるように、もうひとつ上の組織においていろいろ調整をしてもらえると有難い。

【事務局】本日ご覧いただいたのは素案であるため、ここから煮詰めていく必要がある。みなさまからいただいた意見をもとに、よりよいものにしていきたい。

## 9. 副会長あいさつ

洪田副会長が閉会あいさつを行った。